

平成30年度福島県農業振興審議会の事前意見について

施策の分野	背景・課題	方向性	対策	委員名
販路の拡大	(○安全な農産物への関心の高まり)	(○安全な農産物生産に向けた技術開発)	○県オリジナル品種の開発等 ・試験研究機関等との連携によるcodex基準に対応した品種開発及び安全な農産物の生産に係る生産技術の開発等	梶内委員
多様な担い手の育成・確保	○高齢化の進行、後継者等担い手の不足 ○担い手の経営安定化(販売単価の低迷、コスト上昇)	○担い手の経営安定及び所得向上、新規就農者の確保	○担い手の所得の確保に向けたきめ細かい支援 ○新規就農者の確保・定着	阿部委員
多様な担い手の育成・確保	(○所得向上を図るためには、大規模化ありきではなくコスト意識が重要)	○担い手の経営安定及び所得向上	○低コスト経営とその経営体の育成	梶内委員
多様な担い手の育成・確保	○後継者の育成 ○農業が身近でない若い人たちが多くなってきた。	○若い世代の農業への関心を高める。	○魅力的な農業を幼少期から理解するため、若い農業者や農業女子が積極的に関わるプログラムの創設 ・小中学校における社会学習、職業体験、若い農業者等からの講演 ・高校・大学における農業を振興するプロジェクトや施策考えてもらう授業の実施。 その際、福島大学食農学類との連携も検討	関委員
多様な担い手の育成・確保	(○新規就農者の経営安定、定着をサポートする体制が十分整っていない)	○新規参入者を地域でサポートする仕組みの構築	○就農しやすい仕組み、新規就農者を地域や社会で育てる仕組みの構築	関委員
多様な担い手の育成・確保	○後継者の確保	○持続可能な農業の推進	○担い手経営における有機農業や環境保全型農業、GAP等の農業経営の改善の取組への支援	関委員
産地の生産力・競争力強化	(○機能性の高い農産物への関心の高まり、地球温暖化への対応)	(○機能性の高い農産物生産、温暖化に対応した技術開発)	○県オリジナル品種の開発等 ・機能性、耐候性の高い品種の開発等	梶内委員
産地の生産力・競争力強化	○新規就農者の多くが有機農業に関心がある。 ○有機農産物の市場規模は拡大 ○有機農業者の減少	○有機農業の推進	○有機農業を推進する新たな事業の展開	関委員
産地の生産力・競争力強化	(○県産農産物のブランド力、競争力の低下)	○本県農産物のブランド化戦略	○市町村の広域連携による、ブランド化に向けた農産物の生産・販売戦略の構築	梶内委員
産地の生産力・競争力強化	(○種子法廃止による種子の安定供給への不安)	○主要農作物の種子品質維持、生産等の継続	○奨励品種の決定試験、原種等の生産確保等に要する予算の長期安定的確保に向けた条例の制定	梶内委員
その他	—	—	○各種会議内容(資料・議事録)等情報の公表 福島県主要農作物奨励品種決定審査会、福島県オリジナル米生産販売推進本部会議、ふくしまイレブン販売促進協議会等	梶内委員
その他	○補助事業の手続きが煩雑で利用しにくい	○使いやすい補助事業	○ユーザーが使いやすいよう補助事業の手続き等の簡素化を図る。	関委員

※背景・課題、方向性の()は、委員からの意見等に直接記載がなかったため事務局で仮記載したものを。